

平成22年度

健全化判断比率審査意見書

資金不足比率審査意見書

平成23年9月

奈良県監査委員

監 第 4 5 号

平成23年 9月 5日

奈良県知事 荒 井 正 吾 様

奈良県監査委員 廣 野 隆 信

同 南 田 昭 典

同 鍵 田 忠兵衛

同 森 川 喜 之

平成22年度決算に基づく健全化判断比率及び
資金不足比率の審査について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第3条第1項及び第22条第1項の規定により、平成23年7月29日付け財第87号をもって審査に付された、平成22年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率並びにその算定の基礎となる事項を記載した書類について審査した結果、別紙のとおり意見書を提出します。

平成22年度決算に基づく健全化判断比率審査意見書

第1 審査の対象

知事から提出された平成22年度決算に基づく実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率（以下「健全化判断比率」という。）並びにその算定の基礎となる事項を記載した書類を対象に審査を実施した。

第2 審査の方法

この健全化判断比率審査は、

- 1 提出された健全化判断比率が、法令等に照らし、算出過程に誤りはないか
- 2 その算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかを主眼として実施した。

第3 審査の結果

審査に付された次の健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められる。

健全化判断比率は次のとおりである。

- ① 実質赤字比率は、実質収支が黒字であり、算定されない。
- ② 連結実質赤字比率は、連結実質収支が黒字であり、算定されない。
- ③ 実質公債費比率は、11.5%となっており、地方公共団体の財政の健全化に関する法律施行令第7条に定める数値(以下「早期健全化基準」という。)の25%を下回っている。
- ④ 将来負担比率は、215.8%となっており、早期健全化基準の400%を下回っている。

比率名	平成22年度	平成21年度	平成20年度	早期健全化基準
実質赤字比率	—	—	—	3.75%
連結実質赤字比率	—	—	—	8.75%
実質公債費比率	11.5%	11.7%	11.8%	25%
将来負担比率	215.8%	237.1%	252.2%	400%

平成22年度決算に基づく資金不足比率審査意見書

第1 審査の対象

知事から提出された平成22年度公営企業会計の決算に基づく資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類を対象に審査を実施した。

第2 審査の方法

この資金不足比率審査は、

- 1 提出された資金不足比率が、法令等に照らし、算出過程に誤りはないか
- 2 その算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかを主眼として実施した。

第3 審査の結果

審査に付された次の資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められる。

- 奈良県水道用水供給事業費特別会計、奈良県病院事業費特別会計、奈良県流域下水道事業費特別会計及び奈良県中央卸売市場事業費特別会計において、資金不足額はなく、資金不足比率は算定されない。

比率名	会 計 名	平成22年度	平成21年度	平成20年度	経営健全化基準
資 金 不 足 比 率	奈良県水道用水供給事業費特別会計	—	—	—	20%
	奈良県病院事業費特別会計	—	6.7%	8.7%	
	奈良県流域下水道事業費特別会計	—	—	—	
	奈良県中央卸売市場事業費特別会計	—	—	—	

付 表

1	実質赤字比率	・・・	3
2	連結実質赤字比率	・・・	4
3	実質公債費比率	・・・	5
4	将来負担比率	・・・	6
5	資金不足比率	・・・	7

[参考]

・	健全化判断比率等の対象範囲	・・・	8
・	早期健全化基準等について	・・・	9

1 実質赤字比率

一般会計等を対象とした実質赤字額の標準財政規模に対する比率

福祉、教育、まちづくり等を行う地方公共団体の一般会計等の赤字の程度を指標化し、財政運営の悪化の度合いを示す指標

【計算式】	
実質赤字比率	$= \frac{\text{一般会計等に係る実質赤字額 (A)}}{\text{標準財政規模 (B)}}$
	$= \frac{\Delta 5,470,698}{309,644,566} = \text{実質赤字額が発生していないため、算定されない}$

● 一般会計等に係る実質収支額 (A)

[単位：千円]

会計名	歳入総額 (1)	歳出総額 (2)	計 (3)~(5)-(6)	翌年度に繰り越すべき財源				実質収支額 (1)-(2)-(3)- (4)-(5)+(6)
				繰越明許費 繰越額 (3)	事故繰越額 (4)	事業繰越額 (5)	左記に係る未収入 特定財源 (6)	
一般会計	484,160,046	474,601,009	4,279,476	20,258,487	31,061		16,010,072	5,279,561
一般会計等に属する特別会計	公立大学法人奈良県立医科大学関係経費特別会計	6,118,070	6,118,070	0				0
	母子寡婦福祉資金貸付金特別会計	121,458	101,408	20,050		20,050		0
	農業改良資金貸付金特別会計	307,783	36,750	271,033			271,033	0
	中小企業振興資金貸付金特別会計	1,580,265	403,661	1,176,604			1,176,604	0
	証紙収入特別会計	4,911,584	4,720,447	0				191,137
	林業改善資金貸付金特別会計	330,798	1,807	328,991			328,991	0
	公債管理特別会計	101,754,274	101,754,274	0				0
	育成奨学金貸付金特別会計	760,410	226,640	533,770			533,770	0
合計	600,044,688	587,964,066	6,609,924	20,258,487	31,061	2,330,448	16,010,072	5,470,698

● 標準財政規模 (B)

[単位：千円]

金額	309,644,566
----	-------------

※ 地方公共団体の標準的な状態で通常収入されるであろう經常的一般財源の規模を示すもので、標準税収入額等に普通交付税を加算した額をいいます。
 なお、地方財政法施行令附則第13条第2項の規定により、臨時財政対策債（地方一般財源の不足に対処するため、投資的経費以外の経費にも充てられる地方財政法第5条の特例として発行される地方債）の発行可能額についても含まれています。

2 連結実質赤字比率

全会計を対象とした実質赤字（又は資金の不足額）の標準財政規模に対する比率

すべての会計の赤字や黒字を合算し、地方公共団体全体としての赤字の程度を指標化し、地方公共団体全体としての財政運営の悪化の度合いを示す指標

【計算式】	
連結実質赤字比率	$= \frac{\text{連結実質赤字額 (A) + (B) + (C) + (D)}{\text{標準財政規模 (E)}}$
	$= \frac{\Delta 23,508,308}{309,644,566} = \text{連結実質赤字額が発生していないため、算定されない}$

㊦ 一般会計等に係る実質収支額 (A)

[単位：千円]

会計名	歳入総額 (1)	歳出総額 (2)	計 (3)~(5)-(6)	翌年度に繰り越すべき財源				実質収支額 (1)-(2)-(3)-(4)-(5)+(6)
				繰越明許費 繰越額 (3)	事故繰越額 (4)	事業繰越額 (5)	左記に係る未収入 特定財源 (6)	
一般会計	484,160,046	474,601,009	4,279,476	20,258,487	31,061	0	16,010,072	5,279,561
一般会計等に属する特別会計	公立大学法人奈良県立医科大学関係経費特別会計	6,118,070	6,118,070	0	0	0	0	0
	母子寡婦福祉資金貸付金特別会計	121,458	101,408	20,050	0	0	20,050	0
	農業改良資金貸付金特別会計	307,783	36,750	271,033	0	0	271,033	0
	中小企業振興資金貸付金特別会計	1,580,265	403,661	1,176,604	0	0	1,176,604	0
	証紙収入特別会計	4,911,584	4,720,447	0	0	0	0	191,137
	林業改善資金貸付金特別会計	330,798	1,807	328,991	0	0	328,991	0
	公債管理特別会計	101,754,274	101,754,274	0	0	0	0	0
	育成奨学資金貸付金特別会計	760,410	226,640	533,770	0	0	533,770	0
合計	600,044,688	587,964,066	6,609,924	20,258,487	31,061	2,330,448	16,010,072	5,470,698

㊦ 一般会計等以外の特別会計のうち公営企業に係る特別会計以外の特別会計に係る実質収支額 (B)

[単位：千円]

会計名	歳入総額 (1)	歳出総額 (2)	計 (3)~(5)-(6)	翌年度に繰り越すべき財源				実質収支額 (1)-(2)-(3)-(4)-(5)+(6)
				繰越明許費 繰越額 (3)	事故繰越額 (4)	事業繰越額 (5)	左記に係る未収入 特定財源 (6)	
県営競輪事業費特別会計	14,695,914	14,830,408	0	0	0	0	0	△ 134,494
観光自動車駐車場費特別会計	369,474	361,476	0	0	0	0	0	7,998
合計	15,065,388	15,191,884	0	0	0	0	0	△ 126,496

(△は赤字を示す)

㊦ 公営企業会計（法適用企業）に係る資金収支額 (C)

[単位：千円]

会計名	流動資産 (1)	流動負債 (2)	流動負債 控除額 (3)	資金収支額 (1)-(2)+(3)
水道用水供給事業費特別会計	17,905,957	1,261,345	0	16,644,612
病院事業費特別会計	3,627,035	3,076,064	0	550,971
合計	21,532,992	4,337,409	0	17,195,583

㊦ 公営企業会計（法非適用企業）に係る資金収支額 (D)

[単位：千円]

会計名	歳入額 (1)	歳出額 (2)	計 (3)~(5)-(6)	翌年度に繰り越すべき財源				資金収支額 (1)-(2)-(3)-(4)-(5)+(6)
				繰越明許費 繰越額 (3)	事故繰越額 (4)	事業繰越額 (5)	左記に係る未収入 特定財源 (6)	
流域下水道事業費特別会計	11,751,981	10,698,194	140,495	765,000	0	0	624,505	913,292
中央卸売市場事業費特別会計	1,026,730	971,499	0	0	0	0	0	55,231
合計	12,778,711	11,669,693	140,495	765,000	0	0	624,505	968,523

㊦ 標準財政規模 (E)

[単位：千円]

金額	309,644,566
----	-------------

3 実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金等の標準財政規模※に対する比率

借入金(地方債)の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示す指標

※ 標準財政規模から元利償還金等に係る基準財政需要額算入額を控除した額

【計算式】

$$\text{実質公債費比率} = \frac{(\text{地方債の元利償還金(A)} + \text{準元利償還金(B)}) - (\text{特定財源(C)} + \text{元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額(D)})}{\text{標準財政規模(E)} - (\text{元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額(D)})}$$

3ヶ年平均 (平成20年度 11.36967 + 平成21年度 12.21087 + 平成22年度 11.05708) ÷ 3

= 11.5

28,968,342	31,325,243	29,344,306
254,786,093	256,535,775	265,389,385

[単位：千円]

区 分	平成22年度	平成21年度	平成20年度
地方債の元利償還金（繰上償還額等を除く）(A)	72,173,162	71,710,433	73,489,899
準元利償還金(B)	2,406,701	2,584,602	3,124,123
満期一括償還地方債の元金償還相当額	548,683	715,350	820,783
公営企業債の償還に充てたと認められる繰出金	758,842	587,140	751,070
公債費に準ずる債務負担行為に基づく支出	1,099,176	1,282,112	1,552,040
一時借入金の利子	0	0	230
特定財源（公営住宅等使用料等）(C)	980,376	1,772,342	3,573,889
元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額(D)	44,255,181	41,197,450	44,071,791
標準財政規模(E)	309,644,566	297,733,225	298,857,884

4 将来負担比率

一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模※に対する比率

地方公共団体の一般会計等の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標

※ 標準財政規模から元利償還金等に係る基準財政需要額算入額を控除した額

【計算式】

$$\text{将来負担比率} = \frac{\text{将来負担額(A) - (充当可能基金額 + 特定財源見込額 + 地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額)(B)}}{\text{標準財政規模(C) - (元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額(D))}}$$

$$\text{将来負担比率} = \frac{572,767,546}{265,389,385} = 215.8\%$$

◎ 将来負担額 (A)

[単位：千円]

区 分	会計名等	金 額
地方債の現在高	一般会計	1,036,658,391
	公立大学法人奈良県立医科大学関係経費特別会計	34,875,389
	母子寡婦福祉資金貸付金特別会計	390,346
	農業改良資金貸付金特別会計	120,198
	中小企業振興資金貸付金特別会計	3,103,569
	計	1,075,147,893
債務負担行為に基づく支出予定額	一般会計	4,267,628
公営企業債等繰入見込額	水道用水供給事業費特別会計	0
	病院事業費特別会計	5,279,357
	流域下水道事業費特別会計	1,260,503
	中央卸売市場事業費特別会計	96,873
	計	6,636,733
退職手当負担見込額	一般会計	165,228,718
設立法人の負債等額負担見込額	道路公社	0
	土地開発公社	0
	公立大学法人奈良県立医科大学	1,283,195
	第三セクター等((財)奈良県林業基金・(財)奈良県農業振興公社・(財)奈良県中小企業支援センター)	7,045,403
	計	8,328,598
合 計		1,259,609,570

◎ 充当可能財源等 (B)

[単位：千円]

区 分	金 額
地方債の償還額等に充当可能な基金	95,845,492
地方債の償還額等に充当可能な特定の歳入見込額	13,348,458
地方債の償還等に係る基準財政需要額算入見込額	577,648,074
合 計	686,842,024

◎ 標準財政規模 (C)

[単位：千円]

金 額	金 額
	309,644,566

◎ 元利償還金と準元利償還金に係る基準財政需要額算入額 (D)

[単位：千円]

金 額	金 額
	44,255,181

5 資金不足比率

公営企業ごとの資金不足額の事業規模に対する比率

公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示す指標

【計算式】

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額(A)}}{\text{事業の規模(B)}}$$

公営企業ごとの資金不足比率

○ 水道用水供給事業	$\frac{\Delta 16,644,612}{10,992,958}$	=	資金不足額が発生していないため、算定されない
○ 病院事業	$\frac{\Delta 550,971}{17,761,217}$	=	資金不足額が発生していないため、算定されない
○ 流域下水道事業	$\frac{\Delta 913,292}{6,879,427}$	=	資金不足額が発生していないため、算定されない
○ 中央卸売市場事業	$\frac{\Delta 55,231}{606,248}$	=	資金不足額が発生していないため、算定されない

◎ 資金の不足額 (A)

[単位：千円]

法適用企業会計名	流動資産 (1)	流動負債 (2)	算入地方債※ (3)	解消可能 資金不足額 (4)	資金収支額 (1)-(2)-(3)+(4)
水道用水供給事業費特別会計	17,905,957	1,261,345	0	0	16,644,612
病院事業費特別会計	3,627,035	3,076,064	0	0	550,971

※ 建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高をいう。

[単位：千円]

法非適用企業会計名	歳入額 (1)	歳出額 (2)	翌年度に繰り越すべき財源				資金収支額 (1)-(2)-(3)- (4)-(5)+(6)	
			計 (3)~(5)-(6)	繰越明許費 繰越額 (3)	事故繰越額 (4)	事業繰越額 (5)		左記に係る未収 入特定財源 (6)
流域下水道事業費特別会計	11,751,981	10,698,194	140,495	765,000	0	0	624,505	913,292
中央卸売市場事業費特別会計	1,026,730	971,499	0		0	0	0	55,231

◎ 事業の規模 (B)

[単位：千円]

会計名	営業収益等 (1)	受託工事収益 (2)	事業の規模 (1)-(2)
水道用水供給事業費特別会計	11,007,443	14,485	10,992,958
病院事業費特別会計	17,761,217	0	17,761,217
流域下水道事業費特別会計	6,879,427	0	6,879,427
中央卸売市場事業費特別会計	606,248	0	606,248

奈良県の健全化判断比率対象範囲（H22年度決算）

地 方 公 共 団 体	一般会計等	<ul style="list-style-type: none"> ○一般会計 ○特別会計（公営事業会計を除く） <ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人奈良県立医科大学関係経費特別会計 ・母子寡婦福祉資金貸付金特別会計 ・農業改良資金貸付金特別会計 ・中小企業振興資金貸付金特別会計 ・証紙収入特別会計 ・林業改善資金貸付金特別会計 ・公債管理特別会計 ・育成奨学金貸付金特別会計 					
	公営事業会計	<ul style="list-style-type: none"> ○地方財政法上の公営企業以外の事業かつ地方公営企業法の非適用事業 <ul style="list-style-type: none"> ・競輪事業費特別会計 ・観光自動車駐車場費特別会計 					
	公営企業会計	<ul style="list-style-type: none"> ○地方財政法上の公営企業かつ地方公営企業法の非適用事業 <ul style="list-style-type: none"> ・流域下水道事業費特別会計 ・中央卸売市場事業費特別会計 ○地方公営企業法の一部適用事業 <ul style="list-style-type: none"> ・病院事業費特別会計 ○地方公営企業法の当然適用事業 <ul style="list-style-type: none"> ・水道用水供給事業費特別会計 					
	一部事務組合等	○一部事務組合・広域連合（該当なし）					
	地方公社・ 第三セクター等	<ul style="list-style-type: none"> ○地方独立行政法人 <ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人奈良県立医科大学 ○地方道路公社 <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県道路公社 ○土地開発公社 <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県土地開発公社 ○第三セクター（債務を負担している場合） <ul style="list-style-type: none"> ・(財)奈良県農業振興公社 ・(財)奈良県林業基金 ・(財)奈良県中小企業支援センター 					

実質赤字比率

連結実質赤字比率

実質公債費比率

将来負担比率

資金不足比率

公営企業ごとに算定

早期健全化基準等について

（「地方公共団体の財政の健全化に関する法律及び同法施行令」による）

■ 早期健全化基準等（都道府県）

	早期健全化基準	財政再生基準
① 実質赤字比率	3.75%	5%
② 連結実質赤字比率	8.75%	15% ※
③ 実質公債費比率	25%	35%
④ 将来負担比率	400%	—

※ 3年間の経過的な基準（H21年度 25% → H22年度 25% → H23年度 20%）を設けており、経過措置終了後の基準が15%である。

	経営健全化基準
○ 資金不足比率	20%

◎ 早期健全化基準とは

地方公共団体が、財政収支が不均衡な状況その他の財政状況が悪化した状況において、自主的かつ計画的にその財政の健全化を図るべき基準です。

地方公共団体は、健全化判断比率のいずれかが早期健全化基準以上である場合には、「財政健全化計画」を議会の議決を経て定め、速やかに公表し、総務大臣へ報告しなければならない。さらに毎年度、その実施状況を議会へ報告し、公表しなければなりません。

実施状況を踏まえ、総務大臣は必要な勧告をすることができます。

◎ 財政再生基準とは

地方公共団体が、財政収支の著しい不均衡その他の財政状況の著しい悪化により自主的な財政の健全化を図ることが困難な状況において、計画的にその財政の健全化を図るべき基準です。

地方公共団体は、健全化判断比率のうちの将来負担比率を除いた3つの指標のいずれかが財政再生基準以上である場合には、「財政再生計画」を議会の議決を経て定め、速やかに公表しなければなりません。なお「財政再生計画」に総務大臣の同意を得ている場合でなければ、原則として地方債の起債ができません。また計画に適合しない財政運営であると認められる場合等において、総務大臣は予算の変更等必要な措置を勧告することができます。

◎ 経営健全化基準とは

地方公共団体が、自主的かつ計画的に公営企業の経営の健全化を図るべき基準です。

資金不足比率が経営健全化基準以上となった場合には、「経営健全化計画」を議会の議決を経て定め、速やかに公表し、総務大臣へ報告しなければならない。さらに毎年度、その実施状況を議会へ報告し、公表しなければなりません。

実施状況を踏まえ、総務大臣は必要な勧告をすることができます。